2025年7月27日(日)付　東奥日報掲載

音楽祭 参加者の声

迫力演奏楽しめた

曽根真理さん（弘前市、28歳）
5カ月になる第一栄紗ちゃんと、夫と一緒にコンサートに来られてうれしい。演奏は迫力があり、子ども用の曲目も楽しめた。

チェロと歌 印象に

成田明さん（弘前市、82歳）
数少ない生演奏の機会にワクワクしていた。CDやレコードとは違った良さがあり、チェロと観客さんの歌声が印象深かった。

心地良い贅沢な時

佐々友美さん（青森市、38歳）
一家4人で10歳さんのファミリーコンサートを鑑賞した。津中でフルートを吹いていた。心地良い贅沢な時間を過ごすことができた。

気軽さがいい

工藤よしまさん（青森市、62歳）
美しい音色の背後で、店内アナウンスが流れているというのもショッピングセンターなので気軽さがよかった。ホールではない気軽さ

ペダルで印象変わる

細川繁秦さん（千刈小4年）
講習会での横山先生のアドバイスがすごかった。ペダルの使い方によって音が海うたになり、雨の日音がざりと変わって驚いた。

初めての感情だった

石田昌晃さん（青森市、19歳）
特にバイオリンを弾く姿がとてもかっこよかった。初めて感じた感情だった。弾かせてもらえるとしたら、頑張りたい。

隠岐さんの声量感動

佐藤智さん（青森市、61歳）
一番感動したのは隠岐彩夏さんの声量。ホールでないショッピングセンターにもこまめ寄っるのなのかと驚いた。

音楽祭 参加者の声

ボランティア経験

高木万純さん（青森北高3年）
総合探究の時間の「おおもり創造学」で「おおもり館」の事業概要を学んでボランティアとして参加させていただいた。

みんなで校歌 記念に

白鳥美天さん（青森東高2年）
校歌をアカペラでレコーディングしてもらえられてうれしかった。みんなで一緒に歌えて記念になった。

音の伸びが違った

菅井優実さん（青森東高3年）
音の伸びが全然違った。舞台が前に広がっていた。一つ一つの音を意識するようになった。

不思議な感じだった

二本柳さくらさん（東奥小5年）
初めて目の前で聴いた後援者の合奏は、すごく不思議な感じだった。高い音、低い音が混じり合っていて、引きこまれていだった。

自分も演奏したい

小山内誠司さん（弘前一高高専3年）
ゲーム音楽を聞いていて感動した。自分もステージに立って演奏してみたい。

弘前・温清園 アウトリーチ

横山幸雄ピアノ講習会

弘前一葉 アウトリーチ

青森生まれ 情熱の音

サンロード青森 アウトリーチ

オーケストラコンサート

ファミリーコンサート

私のまちに響いた

東通中 アウトリーチ

青東高 アウトリーチ

青森・待望園 アウトリーチ

室内楽演奏会

青い海と森の音楽祭全日程とプログラム

6月30日～7月3日
♪**アウトリーチ**（出前演奏会）
東通村：東通中学校　弘前市／青森市／青森老人ホーム弘前温清園、弘前第一養護学校高等部　青森市／社会福祉法人シオン福祉会待望園、青森東高校、サンロード青森
【出演】沖澤のどか（指揮）、隠岐彩夏（ソプラノ）、高橋洋太（コントラバス）、矢部達哉（バイオリン）、横山幸雄（ピアノ）、北田千尋（バイオリン）、鈴木康浩（ビオラ）、佐藤晴真（チェロ）
【プログラム】モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジークより第1楽章、山田耕筰作曲、北原白秋作詞：この道、マスネ：タイスの瞑想曲、ショパン：ポロネーズ第6番変イ長調「英雄」、サンサーンス：動物の謝肉祭より「白鳥」、シューベルト：ピアノ五重奏曲より第4楽章、アーレン作曲、松岡あさひ編曲：虹の彼方に

7月2日
♪**横山幸雄　ピアノ講習会**
東奥日報新町ビルNew's ホール

7月3日
♪**室内楽演奏会**
東奥日報新町ビルNew's ホール
【出演】奥トリオ（ピアノ：秋元孝介、バイオリン：小川響子、チェロ：伊東裕）、隠岐彩夏（ソプラノ）、吉野直子（ハープ）、伊東裕（チェロ）
【プログラム】ラヴェル：ピアノ三重奏曲ト短調、バーセル：ダペの墓歌、アーン：クロリスに、即興の時、ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女～前奏曲集第1巻より～、オブリ：アズラオ（青い鳥）、パローソ：子守唄、グリーディ：古いソルチコ、オブラドルス：（スペイン古典歌曲集第1集）

7月4日
♪**室内楽演奏会**
東奥日報新町ビルNew's ホール
【出演】横山幸雄（ピアノ）、矢部達哉（バイオリン）、鈴木康浩（ビオラ）、佐藤晴真（チェロ）、吉野直子（ハープ）、松木さや（フルート）、弦楽四重奏（バイオリン：松浦奈々、嘉江智沙子、ビオラ：横溝耕一、チェロ：矢部優典）
【プログラム】オール・ドビュッシー・プログラム／弦楽四重奏曲ト短調、牧神の午後への前奏曲（横山幸雄編）、喜びの島、前奏曲第一巻より（第2曲 帆、第6曲 亜麻色の髪の乙女、第12曲 ミンストレル）、チェロ・ソナタニ短調、バイオリン・ソナタト短調、フルート、ビオラとハープのためのソナタ

7月5日
♪**0歳からのファミリーコンサート**
リンクステーションホール青森
【出演】沖澤のどか（指揮）、吉田大魔王（MC）、アオモリ・フェスティバル・オーケストラ（コンサートマスター・矢部達哉）、隠岐彩夏（ソプラノ）、吉野直子（ハープ）、西沢澄博（オーボエ）、水野琴音（バイオリン）
【プログラム】ブラームス：ハンガリー舞曲第5番懇へ短調、下郷統一：たなばたさま、久石譲：さんぽ、人生のメリーゴーランド、サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン、アンダーソン：ブリンク・ブランク・ブルンク、チャイコフスキー：弦楽セレナーデより第2楽章「ワルツ」、モーツァルト：交響曲第41番（ジュピター）より第4楽章

7月6日
♪**オーケストラコンサート**
リンクステーションホール青森
【出演】沖澤のどか（指揮）、アオモリ・フェスティバル・オーケストラ（コンサートマスター・矢部達哉）、横山幸雄（ピアノ）、隠岐彩夏（ソプラノ）、吉野直子（ハープ）、山川永太郎（トランペット）
【プログラム】ヘンデル：（アンジェロの誕生日のためのオード）より（永遠なる神聖な光の源よ）、モーツァルト：モテット（踊れ、喜べ、幸いなる魂よ）より第1曲（踊れ、喜べ、幸いなる魂よ）、永六輔作詞、いずみたく作曲：見上げてごらん夜の星を、モーツァルト：ピアノ協奏曲第21番ハ長調、ドビュッシー：神聖な舞曲と世俗的な舞曲、モーツァルト：交響曲第41番ハ長調（ジュピター）

「好き」のきっかけに

ファミリーコンサートで自身がデザインしたロゴがあしらわれたポロシャツを紹介する森本さん

5日の「0歳からのファミリーコンサート」に「音楽祭のシンボルロゴ」林檎直哉さんをデザインした市内生まれで東京在住のアートディレクター・森本千絵さんが来場した。家族で訪れた森本さんは、一にぎやかで開口が広く、素敵なコンサートだった」と笑顔で話した。

林檎直哉はリンゴの形をした音符を山と海と五線譜に描いたデザインで、リンゴの実が音符の形をしている。森本さんは「コンサートに参加なさんともたちが、今日のことを忘れないでいてくれたらいいと願った。

アートディレクター・森本千絵さん

父が乗り移ったよう

小澤征良さん

沖澤のどかさんが音楽者演指揮者を務めるサイトウ・キネン・オーケストラの代表で、世界的指揮者の故小澤征爾さんの娘である小澤征良さんが「ファミリーコンサート」に駆けつけた。

沖澤さんが指揮台に立つ日は父が乗り移ったかのようで、「父父の面影を重ねていた。

「だかっこを音楽が生きる役割は大きい」と征良さん。「美しい音楽に国まれながら、人と人がつながり、心を分かち合う」。「このことを武力ではない、人間の本当の強さなのではないでしょうか」

「在宅で寝ていて、何かいつかの音楽祭でも、音楽に救われる日が来ればいいなと思います」と期待をめた。

踊って上、広いて上、戦子子自由に楽しめるファミリーコンサート。森本さんは、音楽は大人だけが楽しむ物でもなく、家族でなければいけないという決断フォーマルでなければいけないという決断でもないと強調。

そのような事、音を楽しめることも一つの才能なのです。「楽しむ」ことが一番。それがは「好き」のきっかけになればいい」と願った。

多くの学びに充実感

ファミリーコンサートで演奏する青森山田高吹奏楽部の「おから」山本さん、野村さん、今泉さん

5日の「ファミリーコンサート」に出演し、プロオーケストラとの共演を果たした青森山田高吹奏楽部は、「本番で「コンサートマスター」の矢部達哉さんが打楽器の3人、本番を終え、ほかの楽器とう合わせ方や音の響かせ方、ただ矢方なる多くを学んだ」と充実した表情を見せた。

リハーサルでは指揮とオーケストラについていくのに必死で、タイミングの遅れを指摘されていたというが、「ずっと、「聴く」も、「聴かれた練習時間の中で、「全体を見てあわせるとういうことを教わった」聴衆とだけで、「聖堂」という「楽しみ」で単中してた」シンバル担当の野村結司さん（2年）は、本番前に演奏者・久一志さんからレッスンを受けられたという。「ただ矢方で音色が全然違うことが分かったし、本番でもできる限り全力でいけた」と喜んだ。

これから吹奏楽コンクール県大会に挑む同校、山本さんは「学んだ感覚を忘れず全国大会出場を目指す」と意気込んだ。

プロと共演・山田高吹奏楽部3人

技が光る藍の一着

アウトリーチでタケオキクチとコラボしたTシャツを着て登場した沖津さん（左端）、隠岐彩夏さん（中央）、高橋洋太さん

タケオキクチ×地元企業コラボTシャツ

青い海と森の音楽祭の開幕を飾った「アウトリーチ」ステージに立った演奏者たちが身に着けていたのが、「藍色」についてのTシャツ。そんな中で出合ったのが、沖津のどなたが掲げる「地産地消の音楽祭」という理念、地域とともに作り上げる協働プロジェクトがスタートした。

Tシャツの製作を担ったのは黒石市の繊維会社トライニー。そこに青森市のあおもり電産業の協力のもと、完成したTシャツは一枚ずつ手染め。綿花も染めを重ねることで深く美しい藍色の色を出すのは正直こまでの色を出すのは苦労したが、それが行にやりがいがあった」と同社の中村崇常務は語る。「仕上がり」は、本番前に演奏者・久一志さんが聴こえてやっぱりクラスでさた」と感謝を伝えた。

演奏者たちが着用したTシャツはブランド名から提供に名をもの、沖津さんは「あず長い」とアウトリーチ終了後も愛用していた。同ブランドのマーチャンダイザー、荒昌義さんは「伝統の中に革新を感じる仕上がり。関われたことを光栄に思う」と語った。

無断での複製・転載・生成AI利用を禁じます